

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
○基礎・基本の定着 ・ICT機器やタブレット型PCを活用した、児童にとって分かりやすい授業を意識する。 ・「学び合い」を取り入れた、楽しく「分かる・できる授業」、習得目的を明確にした授業を意識する。 ・ユニバーサルデザインに基づいた落ち着いた学習環境・教室環境の整備と朝学習の活用、診断、補教を行う。 ○活用能力、探究する力の育成 ・問題解決的、課題解決的な学習の展開や地域での体験を重視した総合的な学習の時間の充実を図る。 ○感性を磨く教育の推進 ・日本の文化や他国についての理解を深める学習の推進や音楽、図工、家庭科において表現のよさや美しさを味わう活動の充実を図る。

授業改善の重点
○学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できるようにする。 ○子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できるようにする。 ○習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できるようにする。

	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
各教科の指導の重点	語彙を増やすために国語辞典を活用し、漢字や文法等苦手なところに気を付けながら、練習問題などで繰り返し練習したり、「おすすめ本」を紹介して読書の幅を広げたりする。言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。	各学年の発達段階に応じて、基礎的な技能の習得を行い、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図る。	○地域教材・人材の更なる掘り起しを計画的に行い、体験学習を中心とした学習を展開する。 ○地域の施設の利用方法(忠生公園・ただONなど)を知ることを通して、地域の理解を深められるようにしていく。 ○調べたことや体験したことを下級生に伝える場を設ける。下級生に分かりやすく伝えられるように発表の仕方を工夫する。	○児童が多面的・多角的に考えられるような発問を構成しながら、道徳的価値の理解が深められるようにしていく。また、道徳的理解を自分との関わりで考え、自己の生き方についての考えを深められるような授業を展開する。
	<b style="text-align: center;">社会科 単元毎に中心概念、社会的事象、用語・語句を明確にして社会的な思考力を伸ばし知識の定着を図る。また、対話的な学びを取り入れて、児童が主体的に学習意欲を継続する学習スタイルを定着させていく。基礎的な知識だけでなく、学習事項から互いの考えをつないでまとめるなど、自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。	<b style="text-align: center;">図工科 道具や材料のよさを生かし、自分の表したいことを表現したり、形や色のもつイメージを感じながら、表現活動と鑑賞活動を行ったりして、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。		
	<b style="text-align: center;">算数科 問題解決学習の推進により、問題をきちんと把握し、見通しをもって論理的に、自立的、協働的に解決していく力をつける授業スタイルをとる。また、計算方法だけでなく、仕組み理解とのスパイラルな学習を行い、柔軟に発展的に対応できる計算力をつけていく。東京ベータドリルの実施結果や学力調査の結果を分析し、学年別に重点指導内容を意識した指導を行う。	<b style="text-align: center;">家庭科 体験的な活動(実習)の充実や授業開始前の注意事項板書、作業手順を絵や図に表して主体的活動、視覚的な理解を促す。生活の営みを想起させながら、生活体験等と関連付けてより深く理解させていくとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考えさせていく。		
	<b style="text-align: center;">理科 考えたことを自分なりに整理して、言葉で説明したり、文章や図、絵などで表現する活動を増やしていく。また、探究する活動の各場面において言語活動を充実させることで、科学的な思考力、表現力を高め、問題を科学的に解決しようとする学習の充実を図る。	<b style="text-align: center;">体育科 3観点をバランスよく育むために、運動の特性を意識した単元の指導計画を立て実践する。児童の実態を見取り、具体的支援を行う。また、知識・技能の基盤作るために、領域や学級の実態に応じた、チーム編成や場の設定を意図的・計画的に行う。さらに思考力・判断力・表現力を養っていくために、1単位時間のめあてをもたせ、振り返りを毎時間行う。		
	<b style="text-align: center;">生活科 校外での活動を積極的に取り入れ、調べたことや体験したことを下級生に伝える場を設け、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動の充実を図る。	<b style="text-align: center;">外国語科(5・6年生) 外国語科としての指導内容を理解し、年間カリキュラムの作成を行う。「読むこと」「書くこと」指導の充実を図る。外国語やその背景にある文化などの見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの基礎的な力を身につけさせる。		

ICT機器の活用	認め合う学び合う集団形成	構造的な板書とノート指導
・G suiteを活用し、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを知ったりする学習活動を取り入れる。また、集めた情報や調べたことをまとめたり、プレゼンテーション資料の作成をしたりする学習活動を行う。 ・理科実験や観察などにおける動画の活用、社会科資料などの情報収集、算数での表やグラフ作成などICTによる学習支援を積極的に行う。	・「学び合い」を取り入れた、楽しく「分かる・できる授業」、習得目的を明確にした授業を意識する。 ・問題解決的、課題解決的な学習の展開を通して、発表される児童の考えの共通点や相違点から学習のまとめを行う集団検討を重視し、児童相互に学び合う授業展開を行う。	・1時間の授業の流れが分かるような板書を行う。授業の問題、ねらい、児童の考え、まとめが分かりやすいようにカード活用を通して明示しながら書いていく。また、児童の疑問点やつぶやき等を随時黒板に反映させるなど、児童の思考が見える板書を行う。 ・黒板とリンクしたノートの書き方を指導し、黒板を写すだけでなく、自ら考えたことや気付いたことを書き込めるノート指導を行う。